



①『ビッグイシュー日本版』販売者へのドリンク提供 ②「年越し大人食堂 2021」での1コマ

③左：『路上脱出ガイド』2020年秋 福岡市内版 右：『路上脱出・生活SOSガイド』2021年熊本版

④コロナワクチン接種をサポート ⑤「おうちプロジェクト」利用者の新居で ⑥支援団体合同での東京都への申し入れ

目 次

03	はじめに —— 共同代表・稲葉剛より
04	第 14 期の活動概要
06	つながって生きる —— ホームレスの人々の自立・自活応援プログラム
06	・ コロナ禍での活動
08	・ 何があっても大丈夫 —— 当事者への情報や交流機会などの提供
09	・ 暮らしを取りもどす —— 健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動
11	・ 仕事がしたい —— 仕事・就業応援プログラム
12	・ 生きていてよかった —— スポーツ・文化活動プログラム
13	生きやすい社会をととのえる
	—— ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案
13	【調査・政策提案の活動について】 —— 共同代表・米本昌平
13	・ 依存症からの脱却 —— ギャンブル障害の調査・提案事業
13	・ 暮らしの基盤をつくる —— 住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業
14	・ 新しい仕事をつくる —— 若者をホームレスにしないために
14	【夜のパン屋さんについて】 —— 共同代表・枝元なほみ
15	市民が社会をつくる —— ボランティア活動と市民参加
15	・ 参加のチャンスをつくる —— ボランティア参加プログラム
15	・ 市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 —— 寄付参加プログラム
17	・ 広報・メディア掲載他
18	これまでの発行物一覧
19	ありがとうございました —— 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加
20	決算報告
22	社会を変えるのはあなたの寄付です —— 会員・寄付の制度について
23	誰にでも居場所と出番のある “ 包摂 ” 社会をつくる
	—— ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は第14期目の活動を終えることができました。

これも、今、この年次報告書を読んでくださっているあなたをはじめ、多くの市民の皆さんが活動に参加してくださったおかげです。改めて、心より御礼を申し上げます。

2020年9月にスタートした第14期は、13期の後半に引き続き、コロナ禍という社会的な危機の中で、基金が「やるべきこと」、「できること」を模索し続けた一年でした。

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）は、世界のほぼ全ての国や地域で格差や貧困を拡大させる「貧困パンデミック」をもたらしましたが、日本国内においても、コロナ禍は、女性や若者、外国人、非正規やフリーランスの労働者など、従来から社会の中で脆弱な立場に置かれていた人たちの間で貧困を拡大させました。また、もともと路上生活をしていた人たちも、路上販売等による現金収入が減少するといった困難に直面しました。

コロナ以前、基金に相談に来られる方のほとんどは中高年の単身男性でしたが、コロナ禍においては新たにホームレス状態に陥ってしまった女性や若者からの相談も増え、相談者の属性が多様化していきました。14期において基金に寄せられた相談は、東京・大阪合わせて延べ1737件と過去最多となりました。

感染拡大を防ぐために「ステイホーム」が呼びかけられているにもかかわらず、「ステイ」するための住まいを失ってしまった方が次々と現れるという危機的な状況のもと、この間、特に基金が力を入れて取り組んできたのが、「おうちプロジェクト」（「おうちをあなたに—コロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」）です。

基金が事務局となり、全国の18の生活困窮者支援団体と協働して進めた「おうちプロジェクト」では、コロナの影響で住まいを失った人、定まった住まいを持たない人207世帯（237人）の住宅確保をサポートすることができました。

「おうちプロジェクト」以外でも、14期は各地の支援団体と協働したネットワーク型の緊急支援や相談会の取り組みが広がりましたが、東京と大阪の両方に拠点を持つ基金の強みが活かせ

たのではないかと考えています。

その一方、基金の持ち味であるスポーツ・文化活動や市民参加については、オンラインの活用も試みたものの、感染拡大による制約から活動を一部縮小・停止せざるをえませんでした。これらの活動については、今後、感染状況を見ながら再開していく予定です。また、政策提案についても新たなプロジェクトの準備を進めています。

2007年9月に設立されたビッグイシュー基金が最初に直面した社会的な危機は、2008年～2009年のリーマンショック（世界金融危機）でした。当時、基金はさまざまな団体・個人の協力を得て、『路上脱出ガイド』の制作・配布を始め、ホームレス状態になってしまった方々に生き抜くための情報提供を開始しました。同ガイドは、その後、『路上脱出・生活SOSガイド』と改称され、各地版が発行・配布されています。

2度目の危機は、2011年の東日本大震災です。当時、基金では仙台市の路上生活者支援団体を訪問し、震災後の現地の状況を継続的に伝えるとともに、石巻市にボランティアを派遣する等、「ともに生きよう！」を合言葉にした被災地支援のキャンペーンを実施してきました。

コロナ禍は、基金が直面する3度目の危機となりました。危機の性格はそれぞれ違いますが、各地で奮闘する団体・個人とつながりながら、苦境に立たされている人たちとともに歩んでいく、という私たちの基本姿勢は変わりません。

現在進行中の危機がどこまで続くのか。予断を許さない状況が続きますが、どうか、これからも基金の事業、活動に忌憚のないご意見をいただき、そして、ご参加いただきますよう心からお願いいたします。



認定NPO法人ビッグイシュー基金
共同代表 稲葉 剛

第 14 期の活動概要

ビッグイシュー基金は、「ホームレス」とは、その人が現在おかれた「状態」を指す言葉で、その人の「人格」を表す言葉ではないと考えてきました。そして、ホームレス状態にある人びとの多様な自立・自活を応援するために、3つの事業「ホームレスの人々の生活自立応援」「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」「ボランティア活動と市民の参加」を柱に、各種のプログラムを展開してきました。

活動 14 年目の今期、新型コロナウイルス感染症の拡大による度重なる緊急事態宣言の発出や、医療供給体制のひっ迫、宣言下での東京五輪の開催など、社会全体が不安定化しました。基金では、全国 3824 人の路上生活者、都内 4000 人のネットカフェ等利用者、そしてコロナの影響で困窮する人が、安心して休息できる個室の居所をどうつくるか、ということ活動を活動の主眼に据え、この課題に複数の民間支援団体と協働して取り組みました。この結果、たとえば基金が事務局を担った「おうちプロジェクト」では、18 団体と協働して 207 世帯（237 人）に賃貸住宅の初期費用などを支払うことで、住まいの確保を応援することができました。

活動が広がる中、基金にも女性、外国籍の人、10 代・20 代の若者などの困窮した人からも相談が寄せられるようになりました。コロナ禍により、年代・性別などの属性をこえ、誰もが「ホームレス状態」になりうる社会のありようが、改めて浮き彫りになっています。

多様なホームレス状態の人と出会い、ともに生き延びる方策を考える活動を、多くの市民ボランティア、6000 人に迫る寄付参加者に支えられ、継続することが出来ました。第 14 期活動の概要は以下の通りです。

（ホームレスの人々の自立・自活応援——情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など）

当事者への情報提供では 20 年 12 月に『路上脱出・生活 S O S ガイド』（東京 23 区編）を 5000 部、増刷しました。定例の昼回り・夜回

りなどでの配布に加え、協働する支援団体、図書館、市民からも送付依頼があり、東京・大阪で計 5312 部を配布しました。また 20 年 11 月には福岡市内版（2000 部）、21 年 7 月には熊本版（5000 部）が、連携する各地の市民団体によって改訂され、基金では印刷費などを応援しました。

生活自立応援では健康、住宅、法律、依存症などについて、東京・大阪合わせて、のべ 1737 件の相談を受け、民間支援団体、行政機関、医療・法律の専門家と連携してサポートしました。女性（277 件）や 10 代～30 代の若年層（397 件）からの相談もありました。

月例サロンは路上での仕事や生活の情報共有を目的に、オンライン会議ツールも活用して、継続開催しました。毎年恒例の市民と当事者の交流イベント「大阪ホームレスクリスマスパーティ」は、感染拡大のため中止。代わりに開いた扇町公園でのお弁当配布の会には、53 人の当事者が参加し、市民からカイロや衣服などの寄付物品が持ち込まれました。

仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者を（有）ビッグイシュー日本と協力して応援しました。コロナの影響で路上販売の売り上げが減少する中、公的支援の利用サポートや寄付物品の提供、ホテルの借り上げ提供なども行いました。

スポーツ・文化活動は、感染症対策のため活動の縮小を余儀なくされました。歩こう会など屋外での活動や、大阪の講談部、サッカーなどはオンラインでの練習やイベント開催にも挑戦しました。また、クラブ活動から発展したダンスチーム「新人 H ソケリッサ！」は、無観客やオンラインでの公演を継続し、昨年公開された彼らの活動を追うドキュメンタリー映画「ダンシングホームレス」は全国複数館で再上映されました。さらに、基金から独立した「ダイバーシティサッカー協会」のオンライン配信イベントや年次報告書作成などの活動を、事務と広報で応援しました。

（コロナ禍での活動——ワクチン接種、行政への申し入れ、大人食堂、おうちPJなど）

夜回りなどの巡回活動で出会う人や、事務所に相談に来られる人、のべ976人に寄付品のマスク等の衛生用品や、食料品などを手渡しました。また住所不定の人のワクチン接種券の取り寄せや、協力医療機関での接種予約などを手伝い、24人が接種につながりました。そして家がない人、無保険の人など、4人のコロナ陽性者の入院や病院受診の手配、保健所との調整や、基金の借り上げシェルターでの一時療養などもサポートしました。

現場での個別の活動と並行して、昨年から都内の困窮者支援団体・個人でネットワークをつくり、東京都に対して4度の申し入れをしました。21年7月には東京五輪を前に、期間中に住まいのない人が滞在できるホテルの確保を求めました。

年末年始、ゴールデンウィークには支援団体協働で相談会を開催しました。東京では計5日間の「大人食堂」に、のべ808人が来場。基金は広報と相談対応などを担当しました。大阪では22団体での協働事業「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA」で相談会を2回開催し、43人が相談に訪れました。

基金が事務局となり、東京・大阪18の困窮者支援団体と協働して進めた「おうちをあなたに——コロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」（略称：おうちプロジェクト）では、コロナの影響で住まいを失った人、定まった住まいを持たない人207世帯（237人）に、賃貸住宅の初期費用などを1世帯最大30万円支払い、住まいの確保を応援しました。また自分名義の賃貸契約が困難な仮放免中・難民申請中の人、7世帯の家賃なども支払い、21年8月に事業を終えました。この事業には米国コカ・コーラ財団から50万ドル（約5357万円）の助成があり、うち4564万円を当事者への直接支援の費用に充てました。

（ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案——ギャンブル障害問題 / 住宅問題など）

ギャンブル障害の問題では、2019年に京都大学大学院医学研究科との共同研究で実施した、大阪市のシェルター利用者にギャンブルとのかかわりを聞く調査の報告書『ホームレス状態とギャンブル障害——121人のヒアリングから』などを、継続して無料配布しました。

住宅事業では、借り上げ住宅「ステップハウス」5室を継続運用しました。今期は東京・大阪で新たに無料シェルター2室を設け、全10室のべ125人が利用しました。

市民による新しい仕事づくりでは、共同代表の枝元なほみが参加し、（有）ビッグイシュー日本の新規事業「夜のパン屋さん」の活動を展開しました。

（ボランティア活動と市民の参加——ボランティア、寄付、そして広報活動）

ボランティア希望者には月例で「オンライン説明会」を開き、今期は160人の参加がありました。累計の登録者数は東京760人、大阪526人、合計1286人でした。

市民応援会員は529人、企業などの会員は2件。寄付金控除のある「出会い寄付」など5つの寄付メニューへの参加者は1753人、任意寄付参加者は3240人、その他寄付者（チャリボン等）421人、遺贈・大口寄付1人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者はのべ5946人、会費＆寄付額は7148万円となりました。

広報では、基金だよりや基金通信「希望前線」を各24回発行。このほかYouTube「ビッグイシューチャンネル」の企画運営、「Google 広告」なども活用しました。またマスメディアでも、SOSガイド、おうちプロジェクト、大人食堂などの活動が取り上げられました。

ホームレス状態の人や、生活に困った人の自活・自立を応援するために、利用可能な公・民の社会資源についての情報提供や、健康・住宅・仕事・法律などに関する困りごとへの相談対応、また当事者・ボランティアによるスポーツ・文化の各種活動を応援しました。

2020年3月のパンデミック以降は、コロナの影響で困窮する人の生活再建をサポートするため、複数の民間支援団体と緊急ネットワークをつくって活動しました。国内で感染者が激増した今期は、ホームレスの人のワクチン接種や、コロナ感染時の療養をサポートする事例もありました。

【コロナ禍での活動】

食品・療養場所・ワクチンの接種サポートなど

新型コロナの感染が拡大した今期は、基金の現場でもかかわるホームレス状態の人など4人が陽性になり、入院や療養を個別にサポートしました。具体的には、医療機関・保健所との連絡調整、携帯電話の貸与、食料品の送付などです。事務所で救急車を呼び入院につながった人（70代）や、家があるが無保険のため病院に行けず、協力医療機関に取り次いだ人（50代）、また陽性がわかったが入院できず、療養施設へ移るまで基金シェルターに一時滞在してもらったケース（70代・50代）などがあり、幸いにしていずれの方も快癒しています。感染拡大で入院や療養施設での陽性者受け入れが制限された時は、予防のためホテルを借り上げ、住まいが不安定な人25人に計552泊を提供しました。

また、基金の事務所では、携行して食べられる食品、マスクなどの衛生用品や衣料品などを随時募集し、事務所に相談に訪れたのべ976人に配布しました。21年8月には、日常的に連携する札幌から鹿児島までの8つの市民団体にもマスクや消毒用アルコール、体温計など衛生用品と、レトルト食品・お米などを送付しました。

新型コロナワクチンの一般接種がはじまった20年5月以来、住所がなく接種券が受け取れない、接種の予約ができない、接種後に療養する場所がない、持病があるため接種を迷っている、などの相談がありました。住所がない人には役所の担当課と調整をして、接種券の再発行をサポートしました。また、大阪ではワクチンに関する疑問・不安について、ボランティア内科医に相談できる「コロナワクチンQ&A」の場を設けました。そのほか、協力医療機関での接種予約や、接種後の静養のための基金シェルター提供なども行い、今期は東京・大阪で計24人のワクチン接種をサポートしました。

複数支援団体共同での、相談会や食事配布の会を開催

大阪、東京で、行政の窓口が閉まる大型連休期間に、民間支援団体合同の相談会を開きました。基金は、相談対応や広報、会場設営や配布物資の調達などを担いました。

大阪では、20年3月に発足した22団体の協働ネットワーク「新型コロナ・住まいとくらし緊急サポートプロジェクト OSAKA」（幹事団体：NPO法人釜ヶ崎支援機構）への参加を継続しました。西成区で2回の相談会を開き、計43人に食料品やホテルでの宿泊費を提供しました。この事業では共同で募った寄付金から、各参加団体の活動現場に相談に来る人への緊急宿泊費なども助成しています。今期は基金を窓口、28



「大人食堂」での1コマ

人に計 175 泊を提供しました。

東京では、基金や反貧困ネットワークなど 5 団体の共催で、20 年 12 月 31 日に東池袋中央公園での臨時相談会を、また 21 年 1 月 1 日・3 日に聖イグナチオ教会で「年越し大人食堂 2021」を開催しました。3 日間で 950 個のお弁当を配り、相談者は 150 人に上りました。

また、5 月 3 日・5 日の「ゴールデンウィーク大人食堂」には 2 日間で 658 人が来場しました。外国人や子ども連れの方など、さまざまな状況の人が相談の列に並びました。各「大人食堂」で提供した料理は、料理研究家で、基金共同代表の枝元なほみが担当しました。

また 2020 年 4 月、最初の緊急事態宣言で、都内で一晩 4000 人以上が宿泊（東京都調査）するネットカフェ等施設への休業要請が出されました。これに先がけて、都内で活動する困窮者支援団体・個人の連名で、東京都に緊急避難のための個室ホテルの確保などを求める要望書を提出しました。その後ホテルは用意されましたが、「宣言」の期間や内容、東京五輪・パラ五輪の開催にも影響されて供給が安定せず、再び路上生活に戻ってしまう人もいました。参加団体間で各支援現場の情報交換をしながら施策の状況をウォッチして、今期は計 4 回の申し入れをしました。

「おうちプロジェクト」で 207 世帯の住まいの確保を応援

「ステイホーム」が叫ばれるコロナ禍では、ホームレス状態の人、コロナで困窮した人たちが安心して体を休められ、生活再建の基盤にできる「おうち」の確保が社会的な課題になりました。基金ではこの課題に取り組むため、2020 年 8 月から東京・大阪の 18 の困窮者支援団体と協働して、「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」（略称：おうちプロジェクト）をはじめました。

この事業では、各協働団体がサポートする、住まいがない人、コロナの影響で住まいを失った人などに、1 世帯最大 30 万円の賃貸住宅の初期費用や家具家電の費用を、事務局のビッグイシュー基金から事業者に支払うことで、住まいの確保を応援しました。この事業には米国 The Coca-Cola Foundation（コカ・コーラ財団）から 50 万ドル（約 5357 万円）の助成があり、21 年 8 月までの時限事業として進めました。

最終的な利用世帯数は 207 世帯（237 人）でした。申込者の性別は、男性 162 人、女性 44 人、トランス女性 1 人。年代別では 40 代（53 人）、50 代（44 人）、30 代（43 人）の順で多く、国籍では日本（197 件）のほか、ネパール、マレーシア、トルコ、ブラジルなど外国人世帯（10 件）の利用もありました。申込時の雇用形態では無職が 105 人、アルバイト・パート 34 人、正社員 13 人、派遣社員 13 人、契約社員 7 人、学生 4 人、自営業 30 人（うち雑誌の路上販売 25 人）、不明 1 人でした。業種は、飲食業、サービス業、運輸業、医療・福祉、保育士、公務員、漫画家、雑誌の路上販売、など多様で、コロナによる困窮が広範に及んでいることがわかります。

また、初期費用や家具・家電のサポートとは別に、200 万円を難民申請中、仮放免中で住まいを失いそうな人の支援に充てました。具体的には協働団体の NPO 法人北関東医療相談会がサポートする 7 世帯の家賃と、同団体が運営する緊急シェルター 3 室の家賃として支払いました。

プロジェクトではこれら直接支援の事業費に 4564 万円を充て、21 年 8 月に事業を終えました。今後は報告書の発行や、イベントの開催なども予定しています。

【何があっても大丈夫——当事者への情報や交流機会などの提供】

「Web 版」へのアクセス増加、福岡・熊本版が改訂

2009 年に初版を発行した『路上脱出ガイド』は、路上生活する人が今日を生きのびるために必要な支援の情報をまとめた冊子です。2016 年からは、依存症や DV、法律や労働など、ホームレス状態の人以外も利用できる情報をまとめた『路上脱出・生活 SOS ガイド』として改訂し、無料で配布しています。これまで札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の 7 地域で発行され、累計で東京 23 区編を 9 万 2609 部、大阪版を 3 万 9297 部を配布しました。



今期は、コロナ禍の影響で報道される機会が増えたことなどをきっかけに請求が急増し、在庫が少なくなったため、20 年 12 月に東京 23 区編を 5000 部増刷しました。増刷後も、協働する支援団体や図書館、市民からの送付依頼が多くあり、1 年間で 5053 部を配布、来期も増刷を予定しています。大阪編も定例の夜回りや、支援団体、図書館等を通じた配布を続け、259 部を提供しました。

東京・大阪以外のガイドは、各地で連携する支援団体が独自に編集・発行し、基金は印刷費を負担しています。11 月には福岡市内版が改訂され 2000 部、21 年 7 月には熊本版が 4000 部発行され、地域の支援団体によって配布が進められています。

それぞれのガイドは基金 HP に無料公開し、今期は月平均で約 3 万 700 件のアクセスがありました。アクセスが多かった前期の約 2 万 8300 件を上回り、困窮する人の閲覧が増加傾向にあると考えられます。

夜回り

大阪では市内で開かれている連携団体の炊き出し回りと夜回り、東京では一般社団法人つくろい東京ファンドとの合同夜回りを継続して行いました。寄付品のカイロやアメニティ、軽食やマスクなどを、公・民の支援情報についてまとめたチラシ『ビッグイシュー通信』や、『路上脱出・生活 SOS ガイド』と一緒に配布しました。今期は計 38 回、のべ 1605 人にお声がけしました。

定例サロン

ホームレス状態の人が集い、仕事や生活について語り、交流する「定例サロン」。大阪では感染予防をして、月に 1 度の開催を継続しました。ビッグイシュー誌の販売についての情報共有や、事務所の感染対策についての話し合い、ワクチン接種について医師に質問する機会などもつくりました。陽性者が最も増えた 8 月には、ビデオ通話サービス「Zoom」も活用して開催しました。

東京では、コロナの感染拡大や度重なる緊急事態宣言の発出のため、11 月と 4 月のみの開催とし、仕事・生活などの情報を事務所に張り出したり、個別に声かけして共有しました。

クリスマス・越年の活動

毎年恒例の大阪ホームレスクリスマスパーティは、感染拡大のため中止し、扇町公園でのお弁当とプレゼントの配布の会を開きました。寄付で集まった衣類やタオルなど、53 人に手渡しました。

越年越冬の取り組みでは、年末年始に活動する 7 団体に計 15 万円のカンパをしました。大阪では「住まいとくらし緊急サポートプロジェクト O S A K A」の相談会に参加し、東京では「年越し大人食堂」を開きました。(7p. 参照)



大阪：扇町公園での食料配布

【暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動】

ホームレス当事者や生活に困窮する人からの相談に、専門家や他の支援団体、行政とも連携して、医療や住まい、法律などの困りごとの解決に向けたサポートを行なっています。今期は、定例の個別相談会や巡回相談に加えて、コロナ禍に対応するための「おうちプロジェクト」(7p. 参照) など緊急ネットワークでの活動が広がり、設立以来で最も多くの相談が寄せられました。

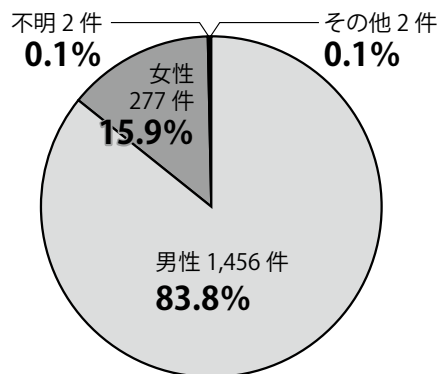
外国人、女性、若者、多岐にわたる相談

今期、基金には大阪で 637 件、東京で 1100 件の相談が寄せられました (いずれものべ数)。

このうち、東京で 5 人、大阪で 4 人の外国籍または外国にルーツのある人からの相談が、本人や支援団体からありました。これは活動開始から最多の人数です。たとえば、工場で働いていたがうつ病になり失職して支援団体のシェルターに住んでいる日系ブラジル人や、建築の仕事で事故に遭い入院して困窮した仮放免中のトルコ国籍の人もありました。

また、女性からの相談は 277 件、10 代～30 代の若年層からの相談が 397 件ありました。女性からの相談では、路上生活をしている人だけでなく、DV の被害にあっている人やサービス業の仕事に従事していたがコロナの影響で仕事を失い困窮した人など、これまでほとんど寄せられなかった相談が複数ありました。

これら多様な相談に、専門の団体と連携して対応し、基金ではホテルの宿泊費の提供や、おうちプロジェクト (7p. 参照) を利用してアパートへの入居をサポートしました。



第 14 期 相談件数の性別内訳



大阪での相談の様子

健康・福祉・法律・住宅の相談

健康・体調について、1年間で215件の相談がありました。大阪では、府保健医協会と歯科保健研究会、プロボノ鍼灸師の協力で、内科・歯科・鍼灸の相談会をそれぞれ4回開き、のべ56人が参加しました。緊急事態宣言等が出されている間は中止しましたが、8月には内科のオンライン相談会を開きました。東京では、看護師のプロボノによる健康チェックのための相談会を2回開き、2人が参加しました。それぞれ、必要に応じて、無料低額診療事業を行う病院受診や入院の調整をしました。

福祉相談は381件、法律相談は17件寄せられ、年金の受給や過去の債務整理などをサポートしました。抹消された戸籍の復活など複雑なケースには、路上生活者の支援に詳しい弁護士と連携して、対応しました。

住まいについての相談は643件あり、地域の居住支援法人や協力不動産屋と連携して、「おうちプロジェクト」(7p.参照)を利用した住まいの確保や引っ越しの手伝い、住民票の移動などをサポートしました。また、路上からの一時的な居所として利用できるステップハウスとシェルターの管理・運営を行いました(13p.参照)

そのほか、住所がなく銀行口座が作れない人を対象に、希望者に積立金の預かりをサポートしました。再就職やアパート入居のために、22人がこの仕組みを利用しました。

また、台風や豪雨などの災害時や、体調不良時に路上ではなく簡易宿泊所などに緊急避難するための費用の貸付を行い、今期はのべ23人が利用しました。

食料品の提供

コロナの影響で他団体による炊き出しの活動が制限されたことを受け、事務所で食料配布を行いました。Amazon 欲しいもののリストなどを活用して集まった米やレトルト食品、企業・NPO などから寄せられた飲み物などを、1年間でのべ865人以上に提供しました。



大阪：食料品の提供

「つながる電話」でスマホを貸与

一般社団法人つくろい東京ファンドとNPO法人ピッコラーレなどが始めた「つながる電話プロジェクト」の登録支援団体としてスマートフォンの利用サポートを行いました。この事業は、過去の債務の影響や、銀行口座がないことなどを理由に携帯電話を契約できない人を対象として、2年間無料で通話可能なスマートフォンを貸与する取り組みです。1年間で38人に提供し、アパート契約時や、体調不良時の安否確認が必要な時にも活用されました。



つながる電話

【仕事が見たい——仕事・就労支援プログラム】

雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の支援事業

路上で生活する人や生活に困窮する人が、身分証や連絡先がなくても、すぐに始められる仕事である、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売の仕事、有限会社ビッグイシュー日本と連携して支援しました。

『路上脱出・生活SOSガイド』やホームページ等での広報・情報提供、販売時の身なりを整えるための衣類やアメニティの提供、販売場所への巡回やヒアリングの機会をつくりました。また、猛暑の時期には、熱中症対策のためのスポーツドリンクや塩飴の配布も行いました。

感染症予防としては、寄付品のマスクや消毒液を随時配布し、体調管理のための体温計も希望者全員に配りました。必要な予防をし安心して販売を続けられるよう、事務所の運用ルールを話し合いながら、雑誌の仕入れなどをサポートしました。



『ビッグイシュー日本版』販売の様子

その他、20年10月にはじまった、食品ロスの解決と仕事づくりの小商いの両立を目指す「夜のパン屋さん」の取り組みについて、広報などの面から協力しました。(14p.を参照)

就労支援の連携事業

雑誌販売以外の仕事を希望する方には、連携するNPOや行政などが運営する就労支援の窓口や施設についての情報提供を行い、必要な時には同行してその利用をサポートしました。

大阪では、仕事の悩みなどを傾聴し、問題整理のサポートを行うコーチングの専門家によるセッションを9回開催し、のべ12人が参加しました。緊急事態宣言下などではZoomによるオンラインの形で継続して実施しました。

東京では、身だしなみを整え、気持ちよく働くためのサポートとして、プロボノの美容師によるヘアカットの会を5回開催し、のべ15人が参加しました。

ビッグイシュー卒業生・就業者との関わり

安定した住まいを得て就職や生活保護などの制度利用につながったビッグイシューの卒業生とも、年賀状のやり取りや、定例サロン、クラブ活動への参加を促し、つながる機会をつくりました。

大阪では、はがきでお知らせをして、希望者とお茶を飲みながら日々の生活のことなどを話す「アフター・ティー」という取り組みを5月から始めました。おうちプロジェクトやステップハウスなどを通じてアパートに入る人が増えた一方で、入居をきっかけに顔を合わせる機会が減少し、コロナの影響で交流イベントなども少なくなることで、孤立する人が増えていると考えたためです。月例で4回を開催したこのプログラムに3人が参加し、健康状態や現在の仕事について話をする機会となりました。

【生きていてよかった——スポーツ・文化活動プログラム】

ホームレスの人が、再び生きるよろこびを見つけ、仲間とともにつながって活動できる当事者主体のスポーツ・文化活動を応援しました。コロナ禍で活動が大きく制限されましたが、オンラインでの発信など新たな方法を模索した1年でした。

スポーツ活動

基金から独立して設立されたNPO法人ダイバーシティサッカー協会と連携して、ホームレスの当事者・経験者によるサッカーチーム「野武士ジャパン」の練習を継続しました。



Zoomでの運動プログラム

緊急事態宣言などが出ている期間は、対面での練習は中止とし、ビデオ通話サービス「Zoom」を使ってオンラインでのエクササイズプログラムを行いました。体を使ったレクリエーションやヨガ、体幹を鍛えるトレーニングやストレッチなどを行い、7回で計45人が参加しました。

ダイバーシティサッカー協会が主催する、ホームレスの人、ひきこもりや依存症、精神障害など、多様な背景をもつ人が参加するフットサル大会「ダイバーシティカップ」は、コロナの影響で中止に。代わりに、小規模・分散型の交流会「ダイバーシティ・プレリーグ」が大阪で11月に、東京で3月に開かれました。そのほか、YouTube上でのライブ配信イベントなども5回開かれ、基金は広報や事務などで協力しました。協会の詳しい活動は公式ホームページ (<https://diversity-soccer.org/>)、または右記のQRコードよりご覧ください。



文化活動

大阪では、講談師の玉田玉秀斎さんが指導する講談部が定期的な稽古を続け、その成果を披露する「ビッグイシュー講談会」が7回開かれました。YouTubeの「ビッグイシューチャンネル」では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の内容を講談調で紹介する活動のほか、ライブ配信イベントにも挑戦しました。また、街歩きクラブ「歩こう会」はコロナで制限されながらも、4回開催されました。

東京では、英語、料理、パソコンなど各クラブの活動が感染予防のため、休止になりました。ダンスグループ「新人Hソケリッサ!」は、20年3月公開のドキュメンタリー映画『ダンシングホームレス』が各地で上映され、オンライン公演にも挑戦。基金は広報、練習場所の確保などを応援しました。



「新人Hソケリッサ!」路上公演



講談部による誌面紹介 (YouTube)

【調査・政策提案の活動について】

ホームレス問題には社会的変動が敏感に反応する。だからわれわれは、日常的な対応のなかでの変化をうまくすくいあげることができれば、いち早く問題点を指摘でき、具体的な政策へとつなげる糸口を生みだせる可能性がある。そのためには俯瞰的な眼差しを持つことががぜん効果的である。また2022年は、ビッグイシュー基金設立の15周年に当たるから、これを機に、ストリート・ペーパーと呼ばれる雑誌『ビッグイシュー』の形の発行組織が、その発足後、どのような展開を経て現在に至っているかを、国際的に比較する研究を手掛けたいと思う。各国のストリート・ペーパーが置かれている現況の比較は、われわれには手に余る大きな課題ではあるが、日本と各国の現状を直接比較できる形に問題点を絞り、日本社会が希少な資源をどの方向に注げばより効果的であるかを示唆するような、はっきりした目的をもった調査を手掛けたいと思う。ただしそれ以前に、そのような研究チームをどう組み立て、維持するのか、から考えていかななくてはならない。ギャンブル依存症問究の実績を踏まえ、走りながら考えていきたい。



NPO法人ビッグイシュー基金
共同代表 米本 昌平

【依存症からの脱却——ギャンブル障害の調査・提案事業】

ホームレス状態になるきっかけの一つで、その脱出を阻む壁にもなるのが、ギャンブル障害の問題です。ビッグイシュー基金では2015年から、この問題を考えるために、内外に研究会を設け、これまでに4冊の報告書を発行しました（18p. 参照）。2018年～2019年の年末年始には、京都大学大学院医学研究科と共同で、大阪市西成区のシェルターなどを利用するホームレス状態の人121人を対象にギャンブルとのかかわりを聞く調査を実施し、結果の概要を2つの学会で発表するとともに、報告書『ホームレス状態とギャンブル障害—121人のヒアリングから』（2019年12月/A4版/12p.）としてまとめました。これら報告書は、市民による勉強会や、国会での質議資料としても活用されました。

今期は、これまでに発行した報告書の無料配布を継続しました。また、相談対応をする基金スタッフが、医療機関が開発した回復プログラムの研修を受け、内部での勉強会を開いたり、実際に相談者とワークを試してみる場もつくりました。

【くらしの基盤をつくる——住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、2013年に「住宅政策提案・検討委員会」を設けて、そこでの議論を3冊の調査・提案の報告書としてまとめました（18p. 参照）。

2014年からは住宅困窮者と「空き家」をマッチングして解決する方法を模索するため、アパートの空き室を連携団体や協力家主から借り受け、ホームレス状態の人が初期費用や保証人なしで利用できる「ステップハウス」や「シェルター」として提供しています。

今期、大阪の「悟楽堂」ではステップハウス4室を6人が、シェルター1室を83人が利用しました。「悟楽堂」では1万5000円の利用料のうち1万円を積み立てて、半年～1年の期間に初期費用をつくることができ、今期は4人が本人名義の賃貸アパートに移りました。2015年の開設からのべ44人が利用し、2泊3日で休養できるシェルターは437件の利用がありました。また、家主さんがかねてより悟楽堂の1室を「子どもを支援する活動に使いたい」と考えておられ、その準備が整われたため、21年

6月に1室をお返ししました。6月からは新たに、市内にある元造船作業員の単身寮だった1室を借り受け、緊急シェルター「ふなでハウス」を開いています。

東京では今期、ステップハウス「すまいるハウス」1室を、2人が利用しました。また緊急用シェルター「ふたまるハウス」2室は、23件の利用がありました。都内のコロナ感染者が激増した8月にはホームレス状態でコロナにかかった人が療養施設に移るまでの一晩をサポートする事例もあったため、新たに「エマシェルター」1室を増室しました。

【新しい仕事をつくる——若者をホームレスにしないために】

2008年のリーマンショック以降、20、30代の“若者ホームレス”からの相談が急増したことに危機感を抱き、「若者をホームレスにしない」ための調査・提案の活動を重ねてきました。その中で見えてきたのは、出口となる「仕事」の極端な不足でした。

基金ではこの課題に、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時に新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の可能性に着目し、小規模でも持続可能な仕事をどうやってつくり、推進できるかを議論してきました。

今期、2020年10月に基金の共同代表・枝元なほみが参加して、(有)ビッグイシュー日本の新事業「夜のパン屋さん」をオープンしました。この事業では、売れ残りそうなパンを協力店舗から預かり、夜間に販売することで食品ロスを減らすと同時に、パンのピックアップや販売を生活困窮者の仕事の一部にしています。

神楽坂の「かもめブックス」の軒先を借りた「本店」(火・木・金/19時～21時)をベースに、開始1年間で提携するパン屋は14軒となり、これまで12人が仕事をしました。コロナで開店が難しくなった際には、大人食堂(7p.)や、夜回り(8p.)など基金の活動現場にもパンが提供され、食べるものがない人とシェアすることができました。

【夜のパン屋さんについて】

「夜のパン屋さん」を始めて、一年が経ちました。

夜の街の細い通り。シャッターの降りた店の軒先。ぼつんと電球の灯りがともっているその下にポツリポツリと家路につく人がやってきては、ちょっと立ち話をしてパンを買ってゆく。最初、「夜のパン屋さん」はそんなイメージでした。

「夜のパン屋さん」が始まったきっかけは、(有)ビッグイシュー日本にいただいた篤志家の方からのご寄付でした。ご寄付のご意向は、なんらかの循環を生み出すような使いかたを、というものでした。何ができるだろう。それまでも食に関係して、なんらかの形で仕事作りができないかを模索してきました。でも世の中にはすでに、美味しいカフェもレストランもパン屋さんも、たくさんあります。

だったら、パン屋さんの閉店時に残るかもしれないパンたちを引き受けて、夜に再販するというのはどうか。帯広にそういうパン屋さんがあることを友人が教えてくれました。その仕組みなら、パンのピックアップと販売の仕事作りができて、ロスになるかもしれないパンも救える！ こんなふうにして、「夜のパン屋さん」が始まりました。なんとか1年がたち、まだまだ次々と色々な課題も出てきますが、これからも頑張っていきます。どうぞ応援してください！



NPO法人ビッグイシュー基金
共同代表 枝元 なほみ

コロナ禍の1年半余、貧困の問題は目に見える形で拡がりました。同時に、この問題にお心を寄せていただき、ともに活動してくださる市民の多大な応援・参加に、励まされる日々でもありました。累計1000人をこえる登録ボランティア、5946人の寄付参加者、また事務所に寄せられる食品や衛生用品などに支えられて、ホームレスの人、生活に困窮する人とともに、コロナ禍を生き延びる方策を考えながら、活動を続けることができました。

【参加のチャンスをつくる―ボランティア参加プログラム】

今期は新たに東京で79人、大阪で23人がボランティアに登録し、累計の登録者数は760人、大阪526人で合計1286人でした。また、札幌、仙台、立川、横浜、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地のサポーター約65人でした。

コロナの影響で、広く参加者を募るボランティアプログラムの開催が困難になりました。そのため、フットサルや講談部などのクラブ活動、月2回の会報誌の発送作業、ヘアカットやコーチング、健康相談会など、それぞれの活動のなかでオンライン開催や人数制限を設けるなど、工夫して取り組みを継続しました。

ボランティア説明会―オンラインで毎月1回開催

ホームレス問題や貧困の問題、ビッグイシュー基金の取り組みや具体的なボランティア活動について知っていただくため、毎月1回の説明会を継続しました。前期に引き続き、感染予防のため、ビデオ会議ツール「Zoom」を使って、オンライン形式で開催し、12回で160人が参加しました。東京・大阪だけでなく、愛知県や新潟県など地方や海外からの参加があったほか、中学生や高校生など、若い世代の参加者もいました。



オンラインでのボランティア説明会

※参加をご希望の方は、基金HP (<https://bigissue.or.jp/>) のイベント一覧からお申し込みください。

【市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付―寄付参加プログラム】

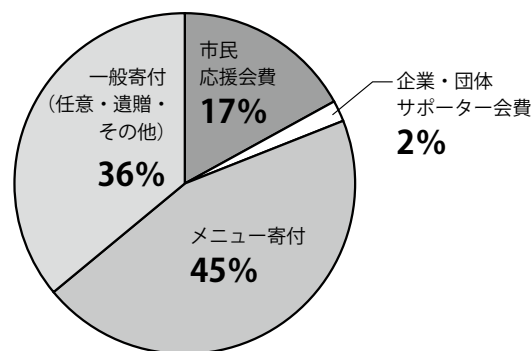
市民応援会員と寄付参加者は合計のべ5946人、会費、寄付をあわせた合計金額は7148万円となりました。前13期と比較して、寄付参加者のべ人数は1666人増え、寄付金額では515万円増加しました。これまで初めての7000万円越えの収益となりました。これは、コロナ禍での活動への寄付のお願いに対し、多くの皆さまに継続して応援をいただいたためです。

会員・寄付者の内訳

第14期の市民応援会員、メニュー寄付参加者、任意寄付参加者は以下の通りとなりました。

(市民応援会員)

にっこり(409人)／ひとり立ち(120人)計529人(会費金額計1214万円)／企業・団体サポーター計2件(会費金額計125万円)→個人、団体合計1339万円



第14期 会費・寄付収入の内訳

(メニュー寄付への参加)

出会い (640 人) / つながりウォーク (633 人) / 実践応援ラン (216 人) / 社会包摂マラソン (157 人) / 市民信頼社会 (107 人) 計 1753 人 (メニュー寄付金額計 3240 万円)

(任意寄付)

任意寄付は 3240 人、遺贈寄付は 1 人、その他寄付 (チャリボン等) は 421 人、計 3662 人 (任意、遺贈、その他の寄付金額計 2569 万円)

こうした市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付は目的や用途などを限定される補助金などとは違う、独自の縛られない資金に支えられて、新型コロナウイルスのパンデミックという社会的危機の中においても既存の活動を継続し、「おうちプロジェクト」をはじめとする緊急的なネットワークでの活動にもチャレンジできました。改めて寄付参加者のみなさんに心からの感謝とお礼を申し上げます。

会報として送付している雑誌『ビッグイシュー日本版』内ビッグイシュー基金通信の「希望前線」欄において活動報告を行い、また、寄付参加者の方へは、毎月、ニュースレターでの事前、事後の報告などで、ともに活動をしていく参加者になっていただけるよう努力しています。また、寄付金については税制優遇を受けていただけるため、2020 年度分の寄付金控除のための領収書を 1858 人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額合計は約 2457 万円となりました (21 年 1 月下旬送付)。

なお今期は寄付参加促進のため、12 月に基金パンフレットを改訂して、お知らせにも基金の活動の輪を広げていただけるよう、「年末寄付キャンペーン」を行いました。引き続き寄付参加しやすい仕組みづくりを検討していきます。

(物品寄付)

基金 HP、Facebook や Twitter などの SNS などで物品の寄付を募集しました。今期は、Amazon「みんなでお店」プログラムの「ほしい物リスト」の仕組みも活用して、大阪事務所への食料品などの支援物資を募集しました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、生活用品や衛生用品などを寄贈いただき、今期 588 件 (東京 267 件、大阪 321 件) の物品寄付がありました。これらは随時、夜回り・昼回りでの活動中や、事務所に訪れる相談者の方に配布しました。

古本でホームレスの人を中心に生活困窮者の自立を応援——チャリボン

書籍や DVD などを株式会社バリューブックスに送ることで NPO に寄付できる仕組みが「チャリボン」です。2013 年 4 月から 2021 年 8 月末までに 4034 人の方から古本などをお送りいただき、買い取り相当額の 816 万 2123 円のご寄付をいただきました。仕組みや詳細についてはチャリボンのウェブサイト (<https://www.charibon.jp/>) をご覧ください。

今期はバリューブックスの協力を得て、20 年 11 月、21 年 3 月、8 月の 3 回書籍等の買取額アップキャンペーンなどを行いました。また同社の制作支援を受け、チラシを改訂・増刷しました。このチラシは基金 HP よりダウンロードいただけます。



「チャリボン」チラシ

【広報——動画での発信にも力を入れました】

日々の活動を報告するため、応援会員等に送付するお手紙「基金だより」と雑誌『ビッグイシュー日本版』掲載の「ビッグイシュー基金通信」を、それぞれ24回発行しました。今期は、路上生活者のくらしや仕事へのコロナの影響について、「おうちプロジェクト」、東京都への申し入れ、大人食堂や大阪での団体合同相談会など活動現場の状況を中心にお知らせしました。

また、ホームページやSNSでの発信に加え、動画配信サービスYouTubeの「ビッグイシューチャンネル」での活動紹介に力を入れました。『路上脱出・生活SOSガイド』の紹介や講談部によるビッグイシュー誌の紹介、共同代表の稲葉剛や枝元なほみも参加して、ライブ配信にも挑戦しました。ビッグイシューチャンネルの動画については<https://www.youtube.com/c/THEBIGISSUEJAPAN>にアクセス、または右記QRコードからご覧いただけます。



さらに、取材の対応やイベントへの登壇のほか、「炊き出し」や「ホームレス」などのワードで検索すると基金のホームページが表示される「Google 広告」を継続的に運用しました。

メディア掲載

(新聞、雑誌、機関紙など)

毎日新聞／朝日新聞／日本経済新聞／読売新聞／東京新聞／中日新聞／大阪日日新聞／静岡新聞／熊本日日新聞／しんぶん赤旗／週刊金曜日／SPA!／日本住宅会議／雑誌『第三文明』／SHUKYU Magazine／月刊誌「WAM」／TOKYO HEADLINE／ボランティア情報誌『ネットワーク』／パンと菓子の専門誌 B&C

(テレビ、ラジオ)

「クローズアップ現代+」NHK／NHK BS プレミアム／NHK ニュース／TBS ニュース／読売テレビニュース／NHK ラジオ「Nらじ」／RBCi ラジオ「アップ!!」

(WEB メディア)

NHK NEWS WEB／FRIDAY デジタル／オルタナ／女性自身／時事通信／AERA dot.／ダイヤモンド・オンライン／Business Journal／論座／BuzzFeed Japan／弁護士ドットコムニュース／テレ朝 news／日刊スポーツ

◇上記メディアに取りあげられた内容

基金の活動／コロナ禍の活動／おうちプロジェクト／路上脱出・生活SOSガイド／年越し大人食堂／GW 大人食堂／都への要望書の提出／講談部／ダイバーシティサッカー／新人Hソケリッサ！など
※各メディア掲載の内容は、基金HPからご覧いただけます。

オフィスの拡張を通じた、実験的な仕事づくりの場や「市民交流サロン」の創設

大阪では、ホームレス当事者とボランティアなど市民が交流し、新たな仕事づくりの実験の場にもできるような、事務所の移転先を探しています。情報収集を続け、内見なども行っていますが、コロナの影響などもあり、理想的な移転先を見つけるに至りませんでした。

コロナを経た社会での活動展開も見すえながら、多様な人が安心して集い、交流し、活動できる場をつくるための物件探しを継続し、来期中の移転を目指します。

これまでの発行物一覧



『路上脱出・生活SOSガイド』東京23区編
2020年6月(A5/56p)



『路上脱出・生活SOSガイド』大阪編
2018年5月(A5/44p)



『ホームレス状態とギャンブル障害』
2019年12月(A4/12p)



『新版 疑似カジノ化している日本』
2018年10月(A4/36p)



『ギャンブル依存症からの生還』
2016年8月(A4/88p)



『若者の住宅問題 & 空き家活用』
2015年10月(A4/24p)



『若者の住宅問題 - 住宅政策提案書 [調査編]』※絶版
2014年12月(A4/40p)



『住宅政策提案書』
2013年10月(A4/24p)



『若者政策提案書』
2015年2月(A4/32p)



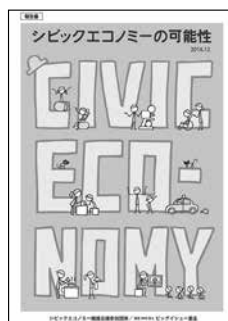
『若者応援プログラム集』※絶版
2014年3月(A4/116p)



『若者ホームレス白書②』
2012年3月(B5/32P)



『若者ホームレス白書』※絶版
2010年12月(B5/32P)



『シビックエコノミーの可能性』
2016年12月(A4/32p)



『2018年度ダイバーシティサッカー活動報告書』
2019年3月(A4/32p)



『社会(スポーツ)をあそぶガイドブック - サッカーが作る居心地の良い社会』
2018年3月(A4/56p)



『第2回ダイバーシティカップ報告書』
2016年11月(A4/56p)

※上記資料は、無料で配布中です。お名前・ご住所・冊数などをHPの入力フォーム、またはFAXでお知らせください。(着払い送料のみご負担をお願いします)

ありがとうございました ―― 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人パブリックリソース財団／東京アンブレラ基金（一般社団法人つくろい東京ファンド）
／ The Coca-Cola Foundation

【企業・団体寄付】

宗教法人 日本基督教団 軽井沢追分教会／アリサン有限会社／宗教法人カトリック・ノートルダム教育修道女会／唐津屋／八王子市つるた勝巳税理士事務所／企業組合 ワークス・コレクティブ企画編集・のもの／カトリック イエズス会 岐部修道院／株式会社ウィズイー／一般社団法人共同通信社／めぐみ指圧治療室／聖イグナチオ教会／株式会社リクルート／ニット株式会社／寺院／仏教を初歩英語で学び実践するサンガの会／ティグレ連合会／レオス・キャピタルワークス株式会社／アテネ出版社／一般社団法人 東京アメリカンクラブ／日本ライフレイ株式会社

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人パブリックリソース財団（ギブワン、<https://giveone.net/>）
株式会社バリューブックス（チャリボン、<https://www.charibon.jp/>）

【物資の寄付】

UBS 証券株式会社（食品、衣料、日用品など）／認定 NPO 法人フードバンク関西（食品）／キーン・ジャパン合同会社（靴、衛生用品）／株式会社鈴木印刷所（衣料）／株式会社ピクニック（衣料）／特定非営利活動法人野の花ネットワーク（衣料）／ビッグイシュー静岡読者会・フェアトレードショップ Teebom（衣料）／株式会社 Ridilover（日用品）／特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会（食品）／タワーレコード株式会社（日用品）／社会福祉法人風（日用品）／ねこざえもん行政書士事務所（食品）／一八亭（食品）／海と月社（食品）／生活協同組合コープこうべ（食品）／一般社団法人ギビングフォワード（食品）／株式会社 Stock Base（食品）／日興アセットマネジメント株式会社（食品）／合同会社 Y・J・F（食品）／株式会社 CTD（衛生用品）／損害保険ジャパン株式会社（日用品）

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人仙台夜まわりグループ／NPO 法人萌友（仙台）／木曜パトロールの会（横浜）／ビッグイシュー販売立川グループ／真宗大谷派聞善寺（金沢市）／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所（社団法人関西厚生協会）／NPO 法人岡山きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

決算報告

第14期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は1億2515万円となり、設立以来最高額になりました。これは、会費・寄付による活動へのご参加が5946人と増大したこと、また米国コカ・コーラ財団から5000万円を超える単発の助成を受けたことによるものです。この結果、第14期の正味財産増減額は3043万円となり、第13期の繰越金5014万円をあわせ、8056万円の剰余金を計上することができました。この剰余金は、コロナ禍につくった緊急支援ネットワークでの活動を深めるための資金として、また大阪オフィスの移転と市民交流サロンなどの事業にも活用します。

【活動計算書 2020年9月1日から2021年8月31日まで】

科 目	金額 (単位: 円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	170,000	
賛助会員受取会費	13,385,000	13,555,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金	58,093,109	58,093,109
3. 受取助成金等		
受取助成金	52,962,039	52,962,039
4. 事業収益		
生活自立応援事業収益	326,843	326,843
5. その他収益		
受取利息	492	
雑収益	216,000	216,492
経常収益 計		125,153,483
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費		
給料手当	8,358,873	
臨時雇賃金	9,224,903	
法定福利費	2,272,541	
通勤費	1,151,187	21,007,504
その他経費		
業務委託費	231,880	
諸謝金	10,000	
印刷製本費	456,738	
会議費	386,710	
旅費交通費	539,933	
通信運搬費	3,475,648	
消耗品費	10,228,412	
家賃 (光熱費含)	3,410,153	
賃借料	2,234,494	
保険料	35,950	
諸会費	80,000	
租税公課	4,200	
研修費	42,630	
広報費	3,110,400	
会報費	4,167,000	
寄付金	150,000	
支払手数料	1,363,778	
入居初期費用支援金	37,299,919	
雑費	1,288,568	68,516,413
事業費 計		89,523,917
2. 管理費		
人件費		
役員報酬	1,800,000	
給料手当	600,000	
法定福利費	88,784	
通勤費	42,648	
福利厚生費	165,891	2,697,323
その他経費		
印刷製本費	180,473	
会議費	1,555	
旅費交通費	2,100	
通信運搬費	510,740	
消耗品費	391,726	
家賃 (光熱費含)	179,482	
賃借料	242,017	
租税公課	2,400	
研修費	3,000	
支払手数料	811,270	
支払利息	39,046	2,363,809
管理費 計		5,061,132
経常費用 計		94,585,049
税引前当期正味財産増減額		30,568,434
法人税、住民税及び事業税		140,000
当期正味財産増減額		30,428,434
前期正味財産額		50,136,101
次期正味財産額		80,564,535

【貸借対照表 2021年8月31日現在】

科 目	金額 (単位: 円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	83,727,760		
未収金	670,000	84,397,760	
2. 固定資産			
敷金	53,000	53,000	
資産合計			84,450,760
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金	977,055		
未払金	278,000		
長期借入金 (1年内返済予定)	1,044,000		
預り金	90,070		
当事者預り金	888,100	3,277,225	
2. 固定負債			
長期借入金	609,000	609,000	
負債合計			3,886,225
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		50,136,101	
当期正味財産増減額		30,428,434	
正味財産合計			80,564,535
負債及び正味財産合計			84,450,760

【財産目録 2021年8月31日現在】

科目・摘要	金額 (単位: 円)		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
手元現金	1,164,723		
普通預金 (三菱UFJ銀行堂島支店)	63,922,120		
普通預金 (三菱UFJ銀行新宿支店)	450,000		
郵便振替	15,360,814		
普通預金 (ゆうちょ銀行)	2,045,740		
普通預金 (三井住友銀行)	708,313		
普通預金 (みずほ銀行)	76,050		
未収金			
賛助会員受取会費未収金 (カード利用)	670,000	84,397,760	
2. 固定資産			
敷金 (東京セルター)	53,000	53,000	
資産合計			84,450,760
II 負債の部			
1. 流動負債			
仮受金 (南ビッグイシュー日本)	977,055		
未払金 (パソコン救急サービス)	278,000		
長期借入金 (1年内返済予定) (日本政策金融公庫)	1,044,000		
預り金 (源泉所得税)	90,070		
当事者預り金 (生活自立積立金)	888,100	3,277,225	
2. 固定負債			
長期借入金 (日本政策金融公庫)	609,000	609,000	
負債合計			3,886,225
正味財産			80,564,535

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

(2) 事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者 や市民の参加応 援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化 活動応援	若者応援 ネットワーク	住宅政策提案	ギャンブル 依存症問題		
人件費								
給料手当	6,226,584	300,000	300,000	300,000	332,289	300,000	600,000	8,358,873
臨時雇賃金	8,417,010	118,089	365,852	0	0	0	323,952	9,224,903
法定福利費	1,878,847	63,463	103,133	44,442	49,330	44,442	88,884	2,272,541
通勤費	944,159	26,754	37,614	21,324	23,884	21,324	76,128	1,151,187
人件費計	17,466,600	508,306	806,599	365,766	405,503	365,766	1,088,964	21,007,504
その他経費								
業務委託費	141,880	0	50,000	0	0	0	40,000	231,880
諸謝金	10,000	0	0	0	0	0	0	10,000
印刷製本費	363,978	0	6,000	0	0	0	86,760	456,738
会議費	259,126	2,464	121,663	0	3,457	0	0	386,710
旅費交通費	510,783	8,180	20,970	0	0	0	0	539,933
通信運搬費	409,110	0	0	0	0	1,410	3,065,128	3,475,648
消耗品費	9,738,335	0	2,059	0	0	0	488,018	10,228,412
家賃（光熱費含）	2,584,537	107,689	143,585	71,793	107,689	71,793	323,067	3,410,153
賃借料	2,147,484	0	87,010	0	0	0	0	2,234,494
保険料	35,950	0	0	0	0	0	0	35,950
諸会費	70,000	0	0	0	0	0	10,000	80,000
租税公課	4,200	0	0	0	0	0	0	4,200
研修費	40,490	0	600	0	0	0	1,540	42,630
広報費	0	0	0	0	0	0	3,110,400	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	4,167,000	4,167,000
寄付金	150,000	0	0	0	0	0	0	150,000
支払手数料	347,979	0	0	0	0	0	1,015,799	1,363,778
入居初期費用支援金	37,299,919	0	0	0	0	0	0	37,299,919
雑費	1,275,368	8,000	5,200	0	0	0	0	1,288,568
その他経費計	55,389,139	126,333	437,087	71,793	111,146	73,203	12,307,712	68,516,413
事業費計	72,855,739	634,639	1,243,686	437,559	516,649	438,969	13,396,676	89,523,917

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	1,230,347	△ 342,247	888,100
合計	1,230,347	△ 342,247	888,100

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に 計上された金額	内役員及び 近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,589,635	3,589,635
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	4,167,000	4,167,000

5、使途が制約された助成金の内訳

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備考
「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」助成金（米国・The Coca-Cola Foundation）	0	52,064,539	52,064,539	0	「おうちをあなたにーコロナ困窮者の住宅確保応援プロジェクト」に対する助成金 53,573,500 円のうちの当期使用分であり、未使用額はありません。

6、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	2,697,000	0	1,044,000	1,653,000
合計	2,697,000	0	1,044,000	1,653,000

監 査 報 告

1 監査の方法の概要
業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。

2 監査の結果
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2020（令和2）年9月1日から2021（令和3）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明確かつ正確であって、適法であることを認めます。
なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。

2021（令和3）年10月26日

特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事
木 原 万 樹

社会を変えるのはあなたの寄付です ― 会員・寄付の制度について

2012年7月、認定NPO法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の4割弱が返金されます。（返金の上限額は納付所得税の25%まで）公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定NPO法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝NPO」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきました。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

メニュー寄付 税制優遇の対象。「(寄付金合計額 - 2千円) × 40%」が税額から控除できます（確定申告が必要）。



出会い寄付
5,000 円 / 1 口（返金額は 1,200 円）



社会包摂マラソン寄付
50,000 円 / 1 口（返金額は 19,200 円）



つながりウォーク寄付
10,000 円 / 1 口（返金額は 3,200 円）



市民信頼社会寄付
100,000 円 / 1 口（返金額は 39,200 円）



実践応援ラン寄付
20,000 円 / 1 口（返金額は 7,200 円）

- **任意額寄付** 事務手続き上 1,000 円からの受付となります。
- **マンスリー寄付** 月額 1,000 円 × 1 口 ~ (HP から受け付けています)
- **法人寄付** 損金算入限度額の枠が拡大されます。

* 雑誌送付などの特典はありません。毎月発行のニューズレター、年次報告書（年 1 回）をお送りします。

遺贈・相続財産の寄付 寄付された相続財産には相続税がかかりません。

税制優遇を受けられる認定NPOになって9年で、19 人の方から相続税が免除される遺贈・遺産寄付をお預かりし、活用させていただいています（2021 年 8 月末現在）。

* 遺贈、相続財産の寄付をお考えの時には、お気軽に電話（06-6345-1517）か E メール（info@bigissue.or.jp）でご連絡ください。当基金の顧問弁護士へのご相談（無料）も可能です。

市民応援会員 特典があります（税制優遇はありません）。



にっこり応援会員
年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」最新号にお名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）ほか



ひとり立ち応援会員
年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】『ビッグイシュー日本版』を 1 年分 24 回
毎号送付 & 雑誌の「基金通信」に 1 年間お名前を
掲載、年次報告書の送付（年 1 回）、パーティに
ペアでご招待（年 1 回）ほか

企業・団体「社会再生サポーター」 特典があります（税制優遇はありません）。

● キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円 ● 社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円 ● 社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円

* 『ビッグイシュー日本版』1 冊を 1 年分 24 回送付、雑誌に 1 年間お名前掲載などの特典があります（年会費に誌代相当分を含みます）。

＜郵便振替での振込み＞ 口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

＜銀行振込み・クレジットカード＞

ビッグイシュー基金のホームページ（<https://bigissue.or.jp/>）からご利用いただけます。

※ 個人の方のご寄付の領収書は 1 月～12 月入金分をまとめて翌年 1 月下旬頃に発行・送付させていただきます。
（これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の 4 割弱が返金されます）

誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる

——ビッグイシュー基金とは

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、という 3 つの柱の活動を通じて、貧困問題と社会的排除という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組みます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を——ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、モノやカネではなく「場と機会」を提供し、ホームレスの人や生活に困窮する人自身が、自立・自活のプロセスを選んで参加できる「自助型の応援」を基本に、多くの NPO、企業や行政・政府とも協力して活動を進めています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かさがある」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、ホームレス状態の人、生活に困窮する人、市民とともに悩み、話し合いながらつくってきた上記の「場と機会」を、さらに拡げていきたいと考えています。

団体概要

- | | |
|---------|---|
| □ 名 称 | 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金 |
| □ 設 立 | 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得 |
| □ 所 在 地 | [事務局] 〒530-0003 大阪市北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
HP : https://bigissue.or.jp/ E-mail : info@bigissue.or.jp
[東京事務所] 〒162-0811 東京都新宿区水道町 4-28 JC 江戸川橋ビル 2 階
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074 |
| □ 役 員 | 共同代表 米本 昌平（東京大学客員教授）
稲葉 剛（立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
枝元 なほみ（料理研究家） |
| 理 事 | 佐野 章二（有限会社ビッグイシュー日本共同代表）
高野 太一（ビッグイシュー基金事務局長）
中川 康生（ビッグイシュー基金法務担当責任者）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ / 世界経済フォーラム / ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長） |
| 監 事 | 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士） |
| 相談役 | 雨宮 処凛（作家） |
| □ スタッフ | 高野 太一 栗原 奈津子 川上 翔 木津 英昭 栗原 侑子 佐野 ハナ 小野 阿津美 |

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？

ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自助と自立を促すために雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらう仕事をつくり、その売り上げの 50%以上を収入にしようという仕組みをもっています。03 年 9 月から 21 年 8 月までの 18 年間で 1982 人が販売者に登録し、205 人が仕事を心得て自立しました。また、累計 923 万冊を販売、14 億 4190 万円の収入をホームレスの人たちに提供してきました。



2021 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4階

TEL : 06-6345-1517 FAX : 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0811 東京都新宿区水道町4-28 JC 江戸川橋ビル2階

TEL : 03-6380-5088 FAX : 03-6802-6074

E-mail : info@bigissue.or.jp URL : <https://bigissue.or.jp/>

デザイン : 新デ制作室

